

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800331		
法人名	社会福祉法人 菊水会		
事業所名	グループホーム うぐいすの里 (うめ館・さくら館)		
所在地	〒750-0317 山口県下関市菊川町大字下岡枝1062番地 Tel 083-287-1230		
自己評価作成日	令和05年12月25日	評価結果市町受理日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

うぐいすの里は木屋川の河川公園のすぐ傍にあり、四季折々の花や景色が楽しめる。時間の許す限り入居者様と過ごし、レクリエーションや散歩が楽しみになるように努め、対応は、職員がユニチュードによる技法を学び、ゆっくりと行うことを心掛け、気持ちの理解に努めている。食事は、朝食・夕食は、給食センターと仕出し弁当を利用するが、昼食は職員が手づくりしている。食材は、うぐいすの里や法人の畑で採れたものを多く使用するようにしている。入居者様は、野菜の皮むきや盛り付け、食器洗いに参加している。毎月1回甘酒を一緒に作り召し上がられている。今年からはボランティアのハーモニカ演奏、法話がきくがわ苑で行われている。それを皆様ゆっくりと、テレビ中継ですが、見ておられる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木屋川沿いの自然豊かな環境の中に2001年12月に開設した、定員18名のグループホームである。職員は地域交流委員としてオレンジカフェや施設周辺の清掃活動に参加し、災害時の福祉避難場所として表明する等、地域福祉の拠点となっている。2ヶ月毎に開催される運営推進会議に、行政、地域包括支援センター、家族代表、自治会会長、交番所長、消防団分団長等、地域からの参加と協力を得ている。看護師を配置し、母体医療機関への定期受診、夜間、緊急時の体制も整い、希望があれば看取りも行っている。毎月法人で行われているグローアップ勉強会、ホーム内勉強会等、職員が学ぶ機会を多く設け、全体のスキルアップに力を入れて取り組み、質の高い職員が定着している。昼食は畑で取れた野菜や差し入れの食材を使ってユニット毎に手作りの料理を提供し、季節の行事食、毎月の甘酒作りは入居者の楽しみである。「うぐいすだより」の他にも、絵手紙に写真とコメントを添えて毎月家族に送付し、「楽しそうで笑顔も増えた。」と、家族から喜びと感謝の気持ちが寄せられている「グループホーム うぐいすの里」である。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和06年02月03日	評価結果確定日	令和06年03月11日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ さくら館 ○ うめ館 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【うめ館】 施設内に理念を掲示しており、朝礼時には唱和し入居者が自分らしく暮らせるように努めている。 【さくら館】 施設内に理念を掲示している。朝礼の時に、職員で唱和している。	法人理念とグループホーム独自の理念を見やすい場所に掲示し、生活日誌にも掲載している。毎日の朝礼時に、理念とスタッフ会議で決めた月目標を唱和して共有し、理念と目標の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	【うめ館】 地域のボランティアの、ハーモニカ演奏や法話等を感染予防の為にテレビ中継で見ている。 【さくら館】 地域のボランティアの、ハーモニカ演奏や法話等を感染予防の為にテレビ中継を見ている。	法人の地域交流委員会に参加してオレンジカフェを開催したり、地域の花壇の花植え、周辺の清掃活動を行っている。地域ボランティアのハーモニカ演奏や法話等は、感染予防対策としてテレビ中継で鑑賞している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	【うめ館】 オレンジカフェまんでんを隔月で地域交流委員会が開催しており、地域の方々との交流を計り、事業所に対する理解が深まる取り組みをしている。 【さくら館】 地域交流委員会がオレンジカフェを開催して地域の方と交流を図っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	【うめ館】 外部評価で改善点を示された時は、管理者、職員全員で具体的な改善方法を考えて、業務に取り入れるようにしている。 【さくら館】 自己評価は、一人ひとりでもらった。項目ごとにケアを振り返ることが出来た。	管理者は、外部評価の目的や意義を職員に説明し、自己評価表を職員に配布して記載してもらい、管理者、各ユニットリーダーがまとめて作成している。自己評価に取り組む事は、自らの介護サービスを振り返る良い機会であり、気づきにも繋がっている。評価結果を基に話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	【うめ館】 2か月に1回運営推進会議を開催し、グループホーム内の取り組み、事故ヒヤリの報告や地域との情報交換を行い事業所の理解を深めている。 【さくら館】 2か月に1回運営推進会議を開催している。今年度からは感染症対策を行いながら、きくがわ苑で報告や意見交換を行っている。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、行政、地域包括支援センター、家族代表、自治会会長、交番所長、消防団分団長の参加を得ている。入居者状況、取り組み、ヒヤリハット、事故等を報告し、各委員から、質問や意見、情報提供を受けて話し合い、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、市職員、警察、消防団が参加されており、ケアに対する質問や意見、情報共有等を行っている。	管理者は、疑問点や困難事例があれば行政担当者に相談し、アドバイスを受ける等、協力関係を築いている。運営推進会議に行政担当者や交番所長、消防団分団長が参加し、ホームの現状を伝え、情報交換を行い、連携を図っている。また、市と福祉避難所の協定を結んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	【うめ館】 年に2回、勉強会に参加し、身体拘束について学んでいる。 現在、身体拘束の事例はない。 【さくら館】 セーフティケア会議で身体拘束について話し合いを行っている。法人内の勉強会に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月1回、身体拘束適正化委員会を開催している。セーフティケア会議の中での勉強会、全職員会議、グローアップ勉強会でも身体拘束の研修を実施し、参加した職員が資料を持ち帰って回覧し、職員全員に周知している。職員は、身体拘束が利用者にも及ぼす弊害について理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	【うめ館】年に2回、虐待防止についての勉強会を開催している。当日参加できなかった職員には資料を閲覧させ情報共有している。 【さくら館】虐待に繋がるような言葉遣いや対応をしないように法人内の勉強会に参加し意識向上に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	【うめ館】新任職員研修で必ず学んでいる。現在は成年後見制度を利用される方はおられないが、以前はおられた。 【さくら館】採用時の勉強会や、グループホーム勉強会で学ぶ機会があり、活用できるようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	【うめ館】入居の際には、必ず個々の話を聴き重要事項を説明して理解納得していただいた上で、入居の契約をしている。 【さくら館】見学に来られた時にパンフレットを渡し分かる範囲で説明している。契約に関することは担当職員が説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一年に1回満足度調査アンケートを実施し、職員はアンケート結果を参考にして勤務している。満足度調査アンケート結果は、いつでも閲覧できるように施設内に掲示している。又、面会時や電話等で、ご家族からの質問や意見には早い対応を心掛け、直ちに上司に報告をしている。	新型コロナウイルス感染症蔓延以前は、年4回家族会を行い、日帰り旅行に出かける等密に連携していたが現在は自粛している。家族の面会時、電話等、コミュニケーションを取る中で家族の意見や要望を聴き取り、年1回、満足度調査アンケートを実施して家族の意向の把握に努め、出された意見を運営に反映させている。「うぐいすだより」と、絵手紙に入居者の写真とコメントを添えて毎月家族に送付している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	【うめ館】リーダー会議等で決まったことを、毎月のスタッフ会議で意見や提案をしている。又、人事考課をしており、上司と個別の面談時に意見する機会がある。 【さくら館】人事考課があり、年2回上司と面談を行っている。その時に意見を聞いてもらっている。	リーダー会議の開催後、スタッフ会議で内容を周知し、職員の意見や要望、気づき等を提案してもらい、ホーム運営や介護サービスに反映させている。スタッフ会議の前に、話し合いたい事、入居者についての気づきを書面で提出し、当日欠席の職員も書面で参加できる仕組みがある。人事考課を年2回実施し、職員の意見や要望を聴き取っている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を導入し、1年間自分自身の目標を持つことで、意識改革や向上心に繋がりが、やりがいのある職場づくりが出来ている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	【うめ館】法人内の定期的な研修に参加の機会がある。職員には興味がある研修に参加出来るよう情報提供している。 【さくら館】毎月法人で行われているグローアップ勉強会に参加しスキルアップを目指している。	法人主催のグローアップ研修に職員が交代で参加し、介護知識や技術の向上に取り組んでいる。外部研修に職員の希望や経験、習熟度に合わせて参加してもらい、職員一人ひとりのスキルアップに繋げている。また、グループホーム勉強会を年6回開催し、職員が交代で講師を務めている。また、資格取得を奨励しバックアップ体制も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の勉強会、グロアアップ勉強会では、外部の講師も招き、定期的な勉強会や情報の共有を行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	【うめ館】 普段の会話の中で、入居者の言葉をそのまま記録し入居者の思いや、家族の意向を出来る限り実現していけるように取り組んでいる。 【さくら館】 入居前に会話を通じて、本人の思いを知り、不安な事や要望を聴き出来る限り実践し、安心して生活が送れるようしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	【うめ館】 面会時には近況等を伝え、その都度細かな事でも家族に連絡し、話をするようしている。 【さくら館】 入居前に家族の思いや不安な事、要望を伺い、出来る限り実践できるようにし、安心していただけるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	【うめ館】 入居申し込みの際には、ご本人家族の希望等を聞いているが、グループホームでは難しいサービスの時は、他のサービスを紹介している。 【さくら館】 入居者や家族の話聴き、必要な支援ができるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	【うめ館】 入居者の居室の、布団カバーの掛け替えや、料理の盛り付け、洗濯物をたたむ等、職員と一緒にやっている。 【さくら館】 洗濯物干しや洗濯たたみ、掃除や盛り付け等を一緒にやっている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	【うめ館】 入居者にとっての今必要な事は、家族と考えたり、家族にも本人の気持ちを伝え、出来る限り支援する努力を行っている。衣類をそろえていただいたり好きな飲み物を購入して頂いたりしている。 【さくら館】 コロナ禍の為、限られた面会時間の中で絆を深めていただいている。日々の生活の様子を伝えている。家族の要望を伺い出来る限り希望に沿ったケアを行うように努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	【うめ館】 家族と一緒に面会に来られる方もあり、なるべく面会できるようにしている。 【さくら館】 家族の方は、面会に来られるが、友人等は来られていない。	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら家族の面会を少しずつ緩和している。希望者には、LINEで動画や写真を送ったり、電話や手紙を取り次ぐ等、馴染みの人との関係や地域社会との関わりが、ホーム入居で途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	【うめ館】 勘違い等で入居者同士の関係がうまくいかな くなった場合、職員は入居者の目を見て良くお話を聴き 関係改善に努めている。 【さくら館】 レクリエーションや生け花クラブ、甘酒作り、 お花の手入れ、洗濯物干やたたみ等の家事を行い入居 者同士が関わり、孤立せずに楽しく生き生きと共同生活 が送れるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入居された後も安心して生活できるよう、本人や 家族の経過フォローし相談支援に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	【うめ館】 不穏な様子があったり、言葉に現れる場合は 傾聴し、思いに寄り添うようにしている。したいことしたく ないことを聞いている。 【さくら館】 入居前入居後の日々の生活の中で得た情報 を記録し、職員間で情報を共有、入居者や家族の思い、 意向に沿った生活援助計画を作成している。	日常会話から入居者の思いや意向を聴き取り、介護サー ビスに反映させている。意向表出の困難な入居者には、 過去のアセスメントを振り返り、家族や職員間で話し合 い、職員が入居者に寄り添い話しかけ、表情や仕草から 入居者の思いを汲み取る努力をしている。「死ぬまでに ホールケーキを一人で食べてみたい」との入居者の希望 を聴いて実現し、大変喜ばれていた。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	日常の会話の中や家族の面会時に、これまでの暮らし について聞き取りを行っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	【うめ館】 午前中は入居者全員で行う体操やレクリエー ションに参加されている。午後からは、それぞれの方に 合った脳トレを提供したり、家事をして頂いている。無理 強いはしないようにしている。 【さくら館】 日々の様子を生活記録表に記入し、現状を の把握を行い、必要に応じてカンファレンスを行ってい る。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	【うめ館】 日常の様子を記録や申し送りで職員間で情報 共有し、入居者に合ったケアを工夫している。家族の意 向も聞き介護計画に反映している。 【さくら館】 毎月、職員全員から各入居者について話し 合いたい事や意見を記入してもらい、それを基にモニタリ ングを行っている。本人やご家族の意見や要望を聞き取 り生活援助計画を作成している。	担当職員と計画作成担当者が入居者や家族と話し合う機 会を設け、意見や要望、心配な事を聴き取り、主治医や 看護師の意見を参考にして入居者本位の介護計画を1年 毎に作成している。毎月モニタリングを実施し、入居者の 状態変化があった時には、家族や主治医と話し合い、介 護計画をその都度見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	【うめ館】 日常生活で変化があった事は、「生活記録」 「健康記録」「生活日誌」「連絡帳」に記録し、職員間でも 申し送りをしてケアプランの見直しに反映している。 【さくら館】 生活記録表に入居者の変化や様子、会話、 言葉も記入し職員の対応、家族の言葉、希望を記入する ことで、情報の共有を行い、生活援助計画の見直しに活 用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態に応じて、家族と連携しながら支援やサービスを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	【うめ館】 コロナ禍以降、地域の行事に参加する事は出来ていない。 【さくら館】 週に1度移動販売車を利用し、食材や入居者の好みのおやつ、歯磨き粉等の消耗品を購入している。月に1度移動美容室があり希望の方は散髪をされている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医への受診は毎月一回職員が付き添い行っている。定期受診以外でも突発的な体調不良やケガの際も受診し適切な医療が受けられるよう支援している。週に一度バイタル測定値をFAXし体調の報告をしている。	入居者や家族の希望を優先して主治医を決定している。母体医療機関への月1回の定期受診と夜間、緊急時の対応に加え、看護職員、介護職員が連携して24時間入居者の健康管理に取り組んでいる。他科受診は家族にお願いしているが、都合で職員が同行することもあり、結果を家族に報告し、入居者の医療情報を共有している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	【うめ館】 職員として看護職が常勤しており、日々の健康管理を行っている。介護職は入居者の変化を見落とさないよう毎朝検温を行っている。看護職への状態の報告を行い適切な受診や医療が受けられるよう支援している。療養シート、健康記録表を使用し、食事量や水分、変化があった事等を記入している。 【さくら館】 毎日体温測定を行い、体調の変化等を看護師に報告し、適切な指示を受けている。必要に応じて受診に行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	【うめ館】 入院時にはサマリーを作成し情報を伝え、病院関係者と情報交換をしている。主治医や家族と相談しながら、早期退院が出来るように努めている。入院時は3か月以内に戻られる方については、居室を確保している。 【さくら館】 入院の際は安心して医療が受けられるように医療機関との情報の提供、交換、連携を密にしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	【うめ館】 重度化や看取りの指針の説明、急変時・緊急時の意向を入居の時に本人や家族に確認して、記録に残している。事業所で出来る事を十分に説明し、嘱託医と職員が連携して取り組み、安心して介護を受けて頂けるようにしている。 【さくら館】 入居時に「急変時延命処置について」の説明を行い、家族の要望を伺い職員も各々の方について情報を共有している。	重度化や看取りに関する指針について、契約時に入居者や家族に説明を行い理解を得ている。入居者の重度化が進むと、家族と密に連絡を取りながら、主治医も交えて方針を確認し、関係者で共有してチームで支援に取り組んでいる。希望者には看取りも行っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	【うめ館】 事故報告書、ヒヤリハット報告書を作成し、再発防止を職員全員で考え実践している。又、週に2回緊急時の対応の訓練を行っている。 【さくら館】 毎週火・金曜日に、緊急時の対応の訓練を行い、慌てずに支援が出来るように実践力を身につけている。	セーフティケア委員会の中で、事故防止対策や発生時の対応について話し合い、職員が落ち着いて迅速に対応出来るように週2回、火曜日と金曜日に緊急時の対応訓練に取り組んでいる。事故報告書、ヒヤリハット報告書を作成し、スタッフ会議の中で検討し、再発防止に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	【うめ館】 法人で実施される避難訓練に参加している。グループホームでも、勉強会で災害時の訓練を計画して入居者と一緒に行っている。又、週に2回緊急時の対応の訓練も行っている。運営推進会議でも委員との災害時の連携の話をしている。 【さくら館】 年2回法人で実施される避難訓練に参加している。グループホームでも週2回(火・金)緊急時の対応を行っている。勉強会にも避難訓練を取り入れている。	法人合同の非常災害に備えた避難訓練を年2回実施し、週2回緊急時の対応訓練を実施し、入居者全員が安全に避難出来る体制を目指している。消防団分団長が運営推進会議のメンバーであるので、緊急時の連絡網に入ってもらい、いざという時の協力をお願いしている。また、福祉避難所として市と協定を結んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	【うめ館】 法人内での接遇の勉強会に参加し言葉掛けや対応について入居者の尊厳を大切にしている。グループホームでも接遇についての勉強会を行い、不適切な言葉掛けや、対応にならないように、心掛けている。 【さくら館】 法人内やグループホーム内で接遇についての勉強会を行っており、言葉かけや対応について学んでいる。その人の思いを尊重し、不快な言葉かけや対応をしないように心掛けている。	入居者のプライバシーを尊重する介護サービスについて職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意している。特に、入浴や排泄の支援では、入居者のプライドや羞恥心に配慮した支援に取り組んでいる。また、入居者の個人情報取り扱いや職員の守秘義務について、管理者が職員に説明し、情報漏洩防止に取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	【うめ館】10時の飲み物については、メニュー表を作り好みの物を利用者に選んでいただいて提供している。食事、好き嫌いについて把握して別の物をお出しする等希望を取り入れている。 【さくら館】 10時の飲み物については、メニュー表からお好きな物選んで頂き職員が準備し飲まれている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	【うめ館】 入居者によって、居室で過ごされたい時は尊重し一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 【さくら館】 休みたいと希望があれば、ソファや居室等で休めるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	【うめ館】 起床時の服や、就寝時のパジャマ等入居者が着たい物を選んで頂いている。美容院は、月に1回きくがわ苑に来る移動美容室を利用されている。 【さくら館】 起床時や入浴時、入居者の好みを尋ね着たい物を選んで頂いている。散髪の希望があれば、移動美容室を利用していただいている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	【うめ館】 畑で採れる旬の野菜等の皮むきをして頂いたり、食事の盛り付けをして頂き食事を楽しみにしてもらっている。 【さくら館】 食事の盛り付けや野菜の皮むき等一緒に行っている。アレルギーのある方には他の物を提供している。(サバ禁など)	昼食は、畑で取れる野菜や差し入れの食材を使って職員が作る家庭的な料理を提供している。入居者の残存機能に合わせて、野菜の皮むきや料理の盛り付けを手伝ってもらっている。敷地内での柿もぎや月1回の甘酒作り、月1、2回行うおやつや食事作りは入居者の大きな楽しみとなっている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	【うめ館】 食事量・水分量を健康記録表に毎日記入している。刻み食やムース食等の方に合った食事作りをしている。自力摂取が難しい方には食事介助も行っている。献立は、管理栄養士が作成している。 【さくら館】 食事量や水分摂取量は、毎日記録しており摂取量の少ない方には、お好みの物を提供し少しでも多く取って頂くよう努めている。糖尿病の方には、ご飯や砂糖の量に気をつけて提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	【うめ館】 毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。出来ない方には一部介助し、口腔内の清潔を心掛けている。義歯の方は毎日預かって洗浄液に浸けて洗浄している。 【さくら館】 毎食後、口腔ケアの声掛けを行い介助の必要な方については、介助を行っている。週2回の義歯洗浄を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	【うめ館】 排泄等の記録表により、入居者に合わせたトイレの声掛けや誘導を行っている。尿取りパッドも入居者に合わせて選んで使用している。夜間ポータブルトイレが必要な入居者には、居室に設置して介助している。 【さくら館】 排泄については、記録を行っており入居者に合わせたトイレの声掛けやトイレ誘導を行っている。	職員は、入居者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。夜間は入居者の希望や体調に配慮して、トイレ誘導やポータブルトイレ、オムツやリハビリパンツ、パットを使い分け、入居者が快適に過ごせる排泄の支援に取り組んでいる。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	【うめ館】 自然排便を促す為に、毎朝牛乳を提供したりバナナやヨーグルトを摂って頂いている。排便状況を生活記録表に記入し、水分を勧める等調節をしている。 【さくら館】 毎朝牛乳を提供している。ヨーグルトやバナナも摂って頂いている。毎日の体操や廊下歩き等で運動を行い、便秘に気をつけている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回は入浴出来るようにしている。入居者の身体状態に応じてシャワー浴や足浴を行っている。入居者の希望を聞いて入りたくない時には変更している。 お風呂には「菊川温泉」を引いており、お湯や、においを楽しまれています。	入居者の希望や体調に配慮した入浴支援に取り組み、週2～3回は入浴できるよう取り組んでいる。好みの湯加減や入浴剤を使用したり、柚子湯等、楽しい入浴になるように支援している。入浴を拒否する入居者には、時間を変更したり、職員が交代で声掛けし、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	【うめ館】 食後はテレビを観てゆっくり過ごされる等、一人ひとりの生活習慣に添えるような環境作りを心掛けている。夜間眠れない時には飲み物を勧めたりお話をし落ち着いた気分になる様支援している。居室の室温や、寝具の調節も行っている。 【さくら館】 一人ひとりの生活習慣に合わせて、食後はソファや居室で休まれる方や、居間でテレビを観たり新聞を読んで過ごされている。夜間眠れない方についてはお話を聴く		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	【うめ館】 入居者の薬の内容のファイルを作り、すぐに確認出来るようにしている。症状に変化があり、臨時薬が出る時や定期薬の変更があった時は、療養シートや連絡帳に記入し、3日間は日誌に貼付し伝達の徹底に努め、朝礼で報告を行い誤薬に繋がらないようにしている。 【さくら館】 薬の一覧表があり、すぐに見れるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	【うめ館】 毎日10時からラジオ体操、歌を唄いながらの廊下歩き、レクリエーションはことわざカルタ、牛乳パック積み、サイコロゲーム、紙芝居、合唱、風船パレー、作品作り、ポストカードへの記入等をしている。午後からは個別に脳トレ、色塗り、計算問題等入居者に合ったものを提供している。家事への参加もあり、テーブル拭きや、盛り付け、洗濯干し・たたみ。毎月甘酒を作り、季節になれば、紫蘇ジュース作りや、柿もぎを一緒にしています。2か月に1度生け花クラブを行い、プランターには季節毎の花を植え、入居者が水やりをされる等一人ひとりが活躍できる場面づくり、楽しんでいただける事の支援をしている。 【さくら館】 毎月甘酒作りや生け花クラブを行い、季節に応じて柿もぎを一緒にしたり散歩等で外に出て気分転換して楽しめるよう支援している。	入居者の身体機能や能力に合わせて、ラジオ体操や廊下の歩行訓練、風船パレー、個別の脳トレ、計算問題に挑戦している。毎月の甘酒作りや季節になれば紫蘇ジュースを作って楽しみ、入居者の生きる力を引き出している。2ヶ月毎に生け花クラブを行い、プランターに季節毎の花を植え、入居者が水やりをして花の成長を楽しむ等、入居者が活躍できる場面作りや楽しみ事の支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	【うめ館】 コロナ禍ということもあり、現在は家族との外出は控えて頂いていますが、河川公園まで散歩に行ったり、受診の帰りに車内から景色を眺てもらったり、玄関でティータイムの時間を設ける等、外の空気に触れる機会を作っている。 【さくら館】 コロナ禍で外出することは出来ていないが、苑内を散歩したりウッドデッキでお茶を飲んでもらい外気に触れて季節を感じて頂いている。	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、近くの河川公園に散歩に出かけ、敷地内の柿の収穫やウッドデッキに出て日向ぼっこやティータイムを楽しみ、入居者の気分転換を図っている。このお正月には、ほとんどの入居者と一緒に数年ぶりに初詣に出かけ、入居者が大変喜ばれていた。コロナの状況を見ながら、少しずつ外出に取り組んでいく事を検討している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	【うめ館】 家族からの預かり金で、必要なものは購入している。ご自分でお金を持ちたいとの希望もあるが、混乱される事もあるので職員が預かるようにしている。 【さくら館】 現在お金を所持されている入居者様はおられないが、必要な物や入居者が希望された時には、預り金から購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	【うめ館】 家族に電話を掛けたいと言われた時には意向に沿っている。 毎月家族宛にポストカードに入居者、職員のメッセージを書き送付している。 【さくら館】 毎月家族宛にポストカードを送っており、家族にメッセージを書かれている。書けない方には塗り絵をして頂いている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	【うめ館】 ベランダに季節に合った花等を植えており、入居者に水やりをしてもらっている。共用の空間には季節を感じて頂けるように、貼り絵や折り紙で花等を一緒に作り見て楽しめるようにしている。 【さくら館】 共用の場所は常に清潔に保つように努めている。季節に応じた飾りつけをして季節感を出している。	ホーム内はバリアフリーを完備し、音や照明、温度や湿度、換気に配慮して、ベランダには季節毎の花を栽培し、玄関やリビングルームには、生花を飾り、入居者と職員が制作した作品を掲示して、生活感、季節感のある温かな雰囲気のある生活空間である。浴室やトイレも清掃が行き届き、清潔で明るい共用空間である。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	【うめ館】 食事の時以外は、居間にはソファの3人掛け・1人掛け、肘掛け椅子、決まった食席、ホーム内の取り付けの椅子等好きな場所で過ごして頂いている。玄関には、ベンチや椅子を用意し景色を眺めたり、気分転換できるようにしている。 【さくら館】 ソファで一緒に過ごしながらテレビを観られたり、会話を楽しんで頂いている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	【うめ館】 居室に置いてある物は、なるべくご自宅で使用していた物を使い、居心地よく過ごせるようにしている。今までの習慣等配慮した家具の配置にしている。家族が季節毎のタペストリーを飾り季節を感じて頂く工夫もされている。レクリエーションで作られた作品はなるべく居室に飾るようにしている。 【さくら館】 居室は、自宅で使用されていたタンスや椅子、小物類等を用いて一人ひとりが居心地よく生活出来るようにしている。	入居者が使い慣れた馴染みの家具や寝具、筆筒、ソファ、テレビ、ラジオ、時計等身の回りの物や、家族の写真等大切な物を持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように配慮し、入居者が安心して穏やかに過ごせる居心地の良い居室となるよう支援に取り組んでいる。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	【うめ館】 廊下や浴室、トイレに手すりを設けている。トイレは表示し、居室も名前を表示している。自立した生活が送れるように整理整頓や、導線を考えた家具の配置を工夫し、安全面にも気を付けている。 【さくら館】 自立した生活が送れるよう、入居者の状態に合わせて家具の配置に気をつけながら安全に生活が送れるように工夫している。		